

第3回健都レールサイド公園及び吹田市立健都ライブラリー
指定管理者候補者選定委員会 議事録

1 開催日時

令和元年（2019年）9月11日（水）午後1時から午後6時39分まで

2 開催場所

吹田市立保健センター 3階 研修室

3 出席委員 5名

渡邊 智山委員、山本 壱弥委員、林口 浩士委員、加我 宏之委員、大川 雅子委員

4 欠席委員 なし

5 市出席者 15名

<健康医療部（北大阪健康医療都市推進室）>

舟津 謙一健康医療審議監、岡松 道哉室長、吉村 恵参事、黒木 隆介主査、
川上 彩加係員

<土木部（公園みどり室）>

松本 利久部長、真壁 賢治次長、曾谷 博之室長、染川 敬市主幹、
水谷 球士主任

<地域教育部（中央図書館）>

木戸 誠部長、長 八七代館長、林野 優子参事、三和 佳恵主査

6 内容

(1) 指定管理者候補者の選定について

ア 書類審査

イ プレゼンテーション審査

ウ 採点結果報告、講評、答申

(2) その他

7 議事の概要

別紙のとおり

(別紙)

第3回健都レールサイド公園及び吹田市立健都ライブラリー
指定管理者候補者選定委員会 議事概要

(1) 指定管理者候補者の選定について

ア 書類審査

委員長： 案件1「指定管理者候補者の選定について」、参加資格審査結果の報告と審査概要の説明を事務局からお願いします。

事務局： 参加資格審査結果報告について御報告申し上げます。応募がありましたのは、4団体でした。審査いたしましたところ、提出書類もすべて揃っており、指定管理料の上限も超えず、募集要項第6の2「応募資格」の条件をすべて満たしておりますので、参加を認めております。

(資料1に基づき説明)

委員長： プレゼンテーションの方法について、何か御質問、御意見等は委員の皆様からはありますでしょうか。

(特に無し)

委員長： 無いようですので、次に「書類審査」につきまして事務局より報告をお願いします。

事務局： (資料3に基づき説明)

委員長： 続きまして、各委員の皆様からの御発言をお願いいたします。まず、収支計画について、決算報告書等の内容についての御意見をお願いします。

委員： (収支計画について決算報告書等に関する御説明)

委員長： 続きまして、各委員の皆様のご専門分野における提案内容のポイントについて、御発言をお願いします。

委員： 公園の管理運営に関する業務のなかで、「公園やライブラリーを活用し、多様なテ

ーマを取り上げたプログラムを計画しているか」という項目の、公園でのプログラムの観点になろうかと思えます。4グループとも、健康や運動を支える公園、更にはここを活性化していくプログラムが多様に展開されているかと思えます。そして、そうしたプログラムを実施していくうえでの「場」としての公園ということで見ると、「公園が、全体の美観を保ち、あらゆる世代の利用者にとって居心地のよい空間となる取組がなされているか」という項目に関わるかと思えます。一つは遊具の安全点検が日常的に順守され、定期的に専門のメーカーに点検していただけるかという点では、4グループとも標準に達しているかと思えます。

もう一つが、公園は人工物だけでなく、自然物、植物で構成されているということです。人工物は、竣工したときが一番良好な状態で、そこから劣化していきます。逆に、樹木、花木、花、草地、芝生は、竣工したときを始点に経年で成長していくこととなります。公共事業ですので、維持管理という言葉を使いますが、本来は育てていく、保育管理という形で、枯れ木や枯死を安全対策として適切に管理する、という点で見ると、4グループとも標準に達していると思えますが、樹木を育てていく、という視点では、4社に差があるのかなと思えます。「吹田市道路・公園樹木適正管理指針」に基づいて維持管理をしていくという点では4グループとも標準に達していると思えますが、適正に管理していくという点でいうと、季節の変化に対応してということもございませし、樹種によって特性が違います。花木、花壇に植えている種類によっても違います。更に、土の広場、みどりの広場、健康増進広場といった場所ごとにどういう目標像を持って管理していくのか、ということで見ると、グループ間に差があるように思えます。

もう一つ、必要な資格要件ではないのですが、近年は、公園管理を専門的に担う資格として公園管理運営士が求められているので、そういった資格を持った方が配置されている、ということで見ると、公園全体の植栽管理、プログラム管理、遊具管理、これらの運営、マネジメントをどうしていくかという点で、経験が豊富である団体もあったように思えます。

委員長： 評価のポイントとしては、健康で文化的な生活の希求に対して、一翼を担うところの指定管理者がどれだけ合理的配慮ができるのか、より多くの人に適切なサポートができる可能性があるのかという視点。また、健都ライブラリーという新しいタイプの図書館の位置付けがどれだけなされているのかを重視し評価しました。それが具体的に現れるのが各種プログラムだと思いますので、独創的なところも踏まえて、いずれの団体もクリアはしていると思えますが、その辺の差をもって私は評価をさせていただきました。

委員： 私からは、公園を使うイベント等について発言させていただきます。4団体とも、健都にふさわしい健康増進、健康長寿をテーマに掲げていますし、参加しやすさ、

実行可能性、幅広い年齢層に対応しているといったことを考慮してイベントを提案されていますが、より注目していただきたいのは、実行可能性、あるいは健都レールサイド公園のコンセプトを最大限理解したうえで公園を使ったイベントを提案しているか。そういったところを考慮して審査していただきたいと考えています。

委員： 提案団体Aの資料は、写真が多く使われ、ロゴを表示していただくなど、とても分かりやすく、利用しているイメージが湧きました。大学や研究施設との連携にも言及しており、地域に根差した図書館になるには大学との連携も必要になると思います。図書館員のスキルアップ研修についても表記されていました。

提案団体Bの個性的なところは、新幹線にピアノを置くという点です。うまくいくかはまだ分かりませんが、新幹線にピアノが置けるのかという疑問もありますが、集客のポイントの1つになると思います。

提案団体Cは、色々なイベントが分かりやすく書かれていました。特に夜の図書館探検というイベント。閉館後の図書館に入る、というのはありそうでなかったイベントではないかと思い、私自身が利用者目線で興味が湧きました。また、当該団体の構成員は、図書館運営を専門にされている会社だと思しますので、図書館運営に関して一歩抜きんでいるのではないかと思います。

そして提案団体Dですが、資料を見ても分かりにくく、利用しているイメージも描きにくかったように思います。

委員長： 財務内容の視点、公園の管理、あるいは配慮、公園を使ったイベント等の充実度、それぞれの視点で書類を審査いただきました。公園の管理運営、イベントにはいくつか問題もあるので、委員の皆様自由に御意見、議論等していただきたいのですが、委員の皆様から何かいかがでしょうか。ここが大きなポイント等、何か主張したいところがあれば。評価はそれぞれで行いますが、ここはどうしても情報を共有しておきたい、という視点で言っただけだと助かるのですが。

委員： 私は公園や図書館の運営をどのようにやっていけばよいのか全面的に分からないので、何となくポイントが絞れません。それぞれよいところもあるし、1つのポイントで比べるのが難しい。同じ事業をやるなら判定もしやすいのですが、皆少しずつ違うので、判定しづらいと感じます。

委員長： 例えば、公園を使ったプログラム、といった視点でしょうか。

委員： 公園があつたり、ライブラリーがあつたり、公園には運動施設もあります。比べにくいように思うのですが、皆さんはどう判断されているのでしょうか。

委員長： おそらくそれぞれの立場で視点によって違うと思いますが、たとえば管理運営の視点からすると、提案団体のどこがよいと思われますか。

委員： 私は事業計画書を見たときに「分かりやすい」ことがまず重要ではないかと考えています。というのも、管理者は公園で利用者とやりとりをする場面が非常に多くなります。もう一方で、植物、遊具など物を管理するうえでのやりとりもあります。加えて、公園で重要なのは利用者とのやりとりです。そうすると、常日頃から、利用者にも分かりやすく伝えることができること。事業計画書で書かれていることが、分かりやすく筋が通っているかどうか、1つのポイントではないかと思えます。それから、健康に関する運動、健康増進に向けてのストレスチェック、各種のプログラム、計測をしていくという点でいうと、どの団体も遜色なく水準に達していると思えますが、利用者にも分かりやすく説明することの重要性に気付いてもらい、実際に継続的に運営してもらおうということから判断すると、4団体に差があります。Aは、パークトレーナーという言葉があったり、都市公園は予防機関なのだという提示があったり、かなり公園から発信しています。Cはスポーツ、運動を通じて、ということから発信されています。加えて、ライブラリーの中での文化活動プログラムも多く書かれています。

プログラムの多様性という意味では、健康から文化、芸術まで提案されているほうが興味深いです。

委員： 公園等を使ったイベントを考慮すると、一番参加してみたいなとか、イベントが充実しているのは、イベントカレンダーを見ても他の比べて抜きん出ている団体があるように思います。健都レールサイド公園のコンセプトをすごく理解しており、運動強度の確認や、ライブラリーの新しい提案もあります。専門的な視点からすると興味を持てます。

イ プレゼンテーション審査

健都パーク&ライブラリー

(プレゼンテーション)

【質疑応答】

委員： (直近の決算報告書に関する質問)

委員： 健都で健康をテーマに公園管理をしていく。健康が注目されているなかで、都市

公園を改めて予防機関として位置付ける、という非常に興味深いプログラムが実施される可能性があるかと期待しております。アプリの活用ということについて、これまでも実際に運用されているのでしょうか。

事業者： 既にダウンロードできます。日々どれくらい走ったか自動で計測でき、体重等のデータを手動で入力できるようになっています。もう少し展開して、健都でアプリを使えるようにし、健康計測コーナーでの計測結果をアプリで見られるようにして、変化を各自が見られるように運用したいと思います。

同じようなアプリがあると思われるかもしれませんが、私共のアプリの特徴は、強度とその強度をどれだけ続けたかが計測できるようになっています。適正運動強度というのがありまして、人それぞれ違うのですが、一人一人の適正強度が日々どれくらい実施できているのかを測れる、という点が他のアプリの機能と違うところで、そこを活用していきたいと思います。

委員： 健康というテーマの充実と、もう一つはそれを支える公園の場所としての維持、保育管理が重要だと思います。プレゼンテーションではお話しいただけていませんが、公園の維持管理の面で御社の売りや、こういうところが重要だということをサポート、強調していただきたいです。

事業者： 公園には直営スタッフを配置し、直接、職員により日常巡視点検をしていきます。遊具、防災設備、樹木もありますので、そちらを確実に日々点検していきたいと思っています。定期点検についても、樹木、遊具も年一回、専門業者を入れて、月一回、職員の点検もします。やはり異常の早期発見が一番大事だと思いますので、日常的なかでいかに発見できるか。倒木も、日常からの枯れ木のチェックが大切なので、台風の被害も多いので、こちらを考えていきます。それから遊具施設に関して、うちの団体に加えて、ボランティアを募り、共同点検をしていきたいと思っています。地元協会に協力していただいて安全の啓発、情報共有をし、一緒に取り組めるような形を作っていければ安全の向上につながるかと考えています。

委員： 新たに植えられている、ということを強調されていますが、通常の成熟している公園管理とは違うのでしょうか。

事業者： こちらの公園は新植が多いので、やはり特に灌水等には気を付けたいです。

委員： 様々な健康プログラムは魅力的だと思いますが、研究機関や大学との連携を謳っておりますが、もう少し具体的に教えてください。

事業者： まず、大学との連携ですが、2つの大学と現在お話ししております。どちらも身体活動を研究されている部署です。日々の運動の強度や生活のパターンは、生活習慣を変えるに当たって重要ですので、例えばどういった所にお住まいで、どういう通勤経路をお使いか、どういう職業で、お仕事で体を使っているか、そういったデータを集め、大学との連携によって、いくつかの生活のパターン化をしたいと思います。そして、パークトレーナーがその方の状況に合った指導をしていきたいと思っています。生活スタイルのパターン化の部分で、日頃のデータ分析を、大学に担ってもらおうと考えています。もう1つ、研究機関や病院との役割分担ですが、私たちは特に健康な方への事業を提案させていただいております。病気を発症し、通院する人数をできるだけ減らし、病院にかからなくていい方を増やしたいと考えておりますので、アドバイスを受けたいと思います。

委員： 具体的には、何か学びのプログラムに反映されていくのでしょうか。

事業者： そうですね、講座、展示も予定しているので、そのなかで皆様に分かりやすく伝えていきたいと思っています。

委員： 敢えて聞くのですが、病気にならないというところで頑張りたいとのこと。健常者へのプログラムはよく分かるのですが、健常者以外に対するプログラムは、どのような考えをお持ちですか。

事業者： 病気にかかっている方は、病気の部分以外の身体活動も必要ですので、その方ができる健康づくりを、ライブラリー、パークトレーナーなどで総合的に対応していきたいです。基本的には皆さんにできる内容で実施しますが、できないところは、個人に応じてやっていきたいと思っています。

委員： 病気などではなくて、肢体の不自由であるとか、精神疾患も社会問題化しておりますが、健常者以外のサポート、ケアについてはいかがでしょうか。病気の人のリハビリではなく、既に障がいを持たれている方へのサポートのイメージなのですが。

事業者： その方にどういった障がいがあるかをまず確認し、できる範囲の健康サポートをし、個別に体を動かせる範囲で一緒にやっていきたいと思っています。

委員： 運動強度を意識し、行動変容も入れたアプローチ、理想的な考え方だと思います。パークトレーナーというのは初めて聞く言葉ですが、これは健康運動指導士の方がされるのですか。

事業者： もちろん健康運動指導士もそうですし、健康づくりの担当者もそうですが、利用者に案内する役なので、担当者で解決できないことは、内部、外部の先生とも相談し、利用者に反映させていきます。健康運動指導士はもちろん他のスタッフもパークトレーナーとして利用者の話を聞き、行動変容をできるように案内していきたいと思っています。

委員： 行動変容はとても大切なことだと思います。具体的に叶えるため、専門的な資格を持った方が対応されるのですか。

事業者： 特に資格はないですが、これまで行ってきたノウハウを活かして提供したいと思います。

委員： パークトレーナーはその人の生活習慣すべてに対応していくのですか。

事業者： まだ始まったばかりなのでどこまで面倒を見られるかわかりませんが、運動、スポーツといったところでなく、もっと小さなところに健康づくりのきっかけがあると思うので、そのシーズを拾い、大学の研究にも反映し、何が行動変容のきっかけになるかをこれから研究していきたいです。そのネタ拾いをするのがパークトレーナーです。

委員： 新しいテーマであり、吹田モデルになればよいと思いますが、そうなったときに、一日 10 人は現実的なのでしょうか。多くの人が来たら対応できないのではないかと思うのですが。

事業者： 実際に一人あたり 20 分で、1 日に 16 人見たことがあるのですが、やはりちゃんとお話を聞こうとすると、一人 20 分から 30 分かかります。やはり意識を変えるには、丁寧にお話ししていく必要があるので、1 日に 10 人から 15 人という目標から始めていきたいと思っています。

委員： 今回のプレゼンテーションの中で、無関心層へのアプローチが大きなポイントかと感じました。先程の行動変容にしてもそうですが、運動や健康づくりに無関心な方へのアプローチは分かりやすかったのですが、図書館、読書、学習に無関心な方へのアプローチを考えておられたら具体的にお聞かせいただきたいです。

事業者： アプローチは同じだと思います。読書や学習は子どもころに無理矢理やらされていたから楽しくないという方に対して、楽しいきっかけをお伝えすることで、成功体験があれば始められると思います。それが運動か、文系かの違いだけだと思います。

ます。健康の色々なプログラムを実施していくので、読書や学習に対してもシーズを拾い、無関心層の行動変容をどんどんしていきたいと思います。

委員： それは講座のなかですか。

事業者： 講座だけでなく、展示や、相談箱など、色々な御意見をいただき、読書を促すカードなど、細かな工夫は色々考えております。

公園とライブラリーが一体となっておりますので、公園、ライブラリーに来る層が、必ずしも一致している訳ではありません。どちらかを目当てに来られる方がいらっしゃいます。私どもが提供するプログラムは、運動はもちろんイベントもさせていただきます。その場その場で、パークトレーナーが幅広い意味で皆さんのニーズや興味を導いていけるのではないかと考えております。

委員： 公園のスタッフにも、図書館の利用、貸出方法が説明できるように教育されるということですが、利用方法を教えるだけでなく、公園に来た方を図書館に導く、と捉えました。その逆はどうなのでしょう。図書館スタッフが公園の方に行き、運動を促す方法はどうか考えておられますか。

事業者： ライブラリーでも健康に関する展示がありますので、それを通じた御案内はできると思います。ただ、窓口業務ですので、その場所を窓口スタッフはあまり離れられませんので、窓口での会話の中で御案内をしていきたいと思います。

委員： もう一回確認したいのですが、行動変容は大事なことです、一方で難しいことです。一歩間違えらるともう行きたくない、ということにもなると思うのです。その辺のノウハウをお話しいただければ。

事業者： この施設だけで、その方のハピネスをすべて引き受けるつもりはありません。毎週来てこれをやりなさい、ではなく、家や他の公園、民間のジムで実践してもらってもよい。色々な選択肢を伝えることがパークトレーナーの使命だと思います。色々な御案内をしたいと思っていて、行動変容は運動だけでなく生活すべてに関わることなので、柔軟に対応していきたいと思います。

委員： 吹田市で活動されている各種の団体にヒアリングをされていると思いますが、その中で健都レールサイド公園へ期待する思い、御意見はどのようなものがありましたか。

事業者： 何度も吹田市に足を運び、地域の方とお話しさせていただきました。地域の方は、

公園ができたことを喜んでいらっしゃいます。ただ、JR吹田駅を境に南北の交流ができていないのではという御意見もありました。健都レールサイド公園と健都ライブラリーができ、地域と公園の連携を図ることで、地域自体の活性化ができるのではと期待されています。

委員： そういうことを、健康プログラムに反映されるのでしょうか。

事業者： 計画書に連携する団体名を記載しています。施設だけで健康づくりを提供するのではなく、地域に行き、交流を図り、健康づくりをしていきたいと思えます。

委員： 健都ライブラリーの管理、窓口等、ライブラリーとの関係が少し見えにくいのですが、その点最後に御主張があれば。

事業者： 今回、ライブラリーと公園が一体となった施設としてオープンします。これらは同じ役割を持った施設だと思っています。別々のものが一つになったとは考えておらず、一体の施設と認識して事業提案させていただいております。公共機関ですので、誰にとってもサードプレイスとなり得る空間なのですが、人それぞれの利用があってよいと思えます。ただ、健都の中にある図書館ということで、私たちは知を担当する場所として、健康の情報を発信していきたいと思えます。図書館を通じて、健康に興味を持ってもらい、パークトレーナーが膨らませていく。そうした連携を考えております。

事業者B

(プレゼンテーション)

【質疑応答】

委員： 応募申請書類に、自主事業の計画書もあり、色々考えられているかと思いますが、収支計画でそれほどの収入を挙げられていないのはなぜですか。

事業者： 今回の応募に関して、市民の皆様には気軽に参加していただきたいので、参加費などを当てにしていません。まずは足を運んでいただきたいので、プログラム等での収入はあまり獲得せず、指定管理料のなかでノウハウを活かしたいので、提出したものでできると判断しました。

委員： 指定管理料の上限が5億3,193万円なのですが、御社は低い額で提案されていま

す。もう少し管理料を使い、色んなことを提案するより、まずは質という考え方で
すか。

事業者： そうですね、我々が運営する施設でコストダウンの勉強もしているので、提出し
た費用で十分賄えると判断して提出しました。

委員： 今までの経験から、個人がライブラリーで学んだ健康づくりの活動を活かし、自
主的に自立して実施する。これは地域Aでも経験があり、非常に興味深い。ですが、
ライブラリーに来られる方は本を読みたい、借りたいという目的で来られます。フ
ィットネスクラブも運動したい目的で来られますね。すると、機能、目的が明確化
しているのが、介護予防センター、ライブラリー、フィットネスクラブですが、一
方で、公園は無目的で来られます。健康も意識せず、遊びに来ている。無目的な方
に対し、本当に自主活動グループが形成されるのか。何か、かなり仕掛けが要るの
ではないかと思うのですが、どうお考えですか。

事業者： 地域Aでは、担い手、中心となる介護予防リーダーを作りました。自分たちで自
主活動グループを立ち上げるためのカリキュラムを受講したリーダーがいて、カリ
キュラムのなかで、やりたいこと、そのために何をするかを学びます。修了後、実
現に向けて我々が相談に乗りサポートする体制でお手伝いしております。

無目的に集まる方たちへの仕掛けについては、公園で、お子さん連れのお母さん
たちがおしゃべりしながらゆっくり散歩されている、同種類のグループを見かけま
した。そういった方たちにイベント等を御紹介しながら、同じ環境にある方をグル
ープ化していけたらと。港区では高齢者向けにグループを作っていますが、健都で
はあらゆる年代が対象になるので、もっと若い方に参加してもらえenと思います。
多世代が参加していける形に挑戦できればと思っています。

委員： 御高齢の方は社会奉仕に意欲が高いですが、最近の若い人は嗜好が多様化してい
て、必ずしもそうではありません。子育てをされている方は、子どもを育てること
が非常に手間であり、そこからボランティア活動をするのは難しい。若い人は刺激
を求めているので、緩やかなボランティア活動になかなか興味を示さない。最初の
きっかけが重要になると思います。気付いてもらえると、成熟させることは同じか
と思います。

もう一点、公園の維持管理のところで、アウトドアリビングのコンセプトの取組
という御提案がありますが、新たに施設整備するのか、どういう状態をアウトドア
リビングというのか、もう少し具体的に教えてください。

事業者： 承認いただいたうえでですが、季節によっては本を持ち出し、芝生で読むなど、

ライブラリーだけでなく公園全体を図書館と捉え、皆さんに楽しんでいただける環境作りをしていきたいという意味合いでアウトドアリビングという言葉を使いました。せっかく横に立派な公園があるので、季節のよい時期には楽しんでいただく。色々工夫は必要ですが、そのようなものに挑戦したいと思います。

委員： 屋外の公園なので植栽管理が発生しますが、吹田市の管理指針や樹木の特性に合わせた適正な時期での管理が必要です。今の公園を見て、特に重視すべきと感じていることはありますか。

事業者： この時期かなり暑く、熱中症の心配などもありますが、枯れが怖いので巡回も含めてこまめに行います。見た目も重要で、青々とした緑は癒しにもなります。枯れていると公園の魅力も半減されるので、全体的にこまめに巡回したいと思います。

委員： 灌水をこまめにしていただくということでしょうか。

事業者： 巡回の重視を考えております。

委員： 各種の健康プログラム、キッズ系のイベントなど、多様性をもって実施していくところに特徴があると思いますが、健都ライブラリーを使つての御提案は、屋外で、とありましたが、図書館も使い方に多様性がありますので、図書館を使ったプログラム案があれば教えてください。

事業者： 当社は健康産業をメインにやっているのですが、栄養、運動の本の解説を実技も含めやっていきたいです。筋トレの方法は本に載っていますが、正しいフォームでできているか、記事の解説や、竹を踏む運動、マッサージ等の備品を置く等を考えております。測定器の解説、結果は記録し、次回につなげていけるものをライブラリーの中で実施していきたいです。

ライブラリーには、運動、トレーニングが嫌いな方が多いと思います。それだけでなく、折り紙、サイエンスカフェ等、知識の方から興味を持ってもらいたいです。司書から体に興味を持ってもらう本を紹介し、その作家のセミナーを開く等、ライブラリーだからこそできることはたくさん開催していきたいです。積み木アートなどの創作活動、木のパズル等の手遊び等をして面白いのではないかと、色々アイデアは考えております。

委員長： 実現可能性はどうでしょうか。例えばサイエンスカフェはずっとされていますか。

事業者： 子どもたちのサイエンス教室、環境教室は一年に何回か実施しています。今まで

やってきたもので実施できればと思います。

委員： フィットネスクラブをライブラリーでやっていこうとお考えですか。というのは、公園でのイベントが少ないかなと思ったのですが。

事業者： ライブラリーでは、多目的室を使って、ある意味スポーツクラブに近い形を考えております。何曜日でも何かしら受講できる。公園に関しては、週末、若しくは働き盛りの若い世代へ向けては夜のウォーキング、ジョギングを定期的に入れるつもりです。公園を使いながら実施できたらと思います。アウトドアサーキットトレーニングも計画したいと思います。

委員： 年に一回、健都祭を企画されているとのことですが、こういったイメージがありますか。

事業者： オリンピアンなどスター性のある方をお呼びしたり、ストリートピアノを置きますので、音楽家を呼んで演奏会等、音楽協会にも協力してもらい、ライブコンサートを考えております。

委員： 「いきものと眠りの健康」に興味を持ちました。現代人は不眠症などに悩んでいますよね。これは力を入れていただきたいですが、どんなことを考えていますか。

事業者： 実績として協力会社がやっておりますので、環境的に非常に即していると思います。定期的に実施したいと思います。

委員： 類似施設実績の図書館の業務内容について、設備管理業務のみ書かれていますが、窓口などの図書館運営業務はされていないのですか。

事業者： 運営企業とJVを組んでいるので、窓口は運営企業が担当し、ハード面の設備管理は我々が担当しています。

委員： ストリートピアノを新幹線に置くとのことですが、スペース的に置けるのでしょうか。

事業者： 座席を一部取り去れば、小さなスタンドピアノであれば置けるのではと予測しております。図書館は音を嫌う施設ですが、新幹線は防音効果もあるので、両立できればという思いです。

委員： 最初の気付きとしてのライブラリー、との単語について。これは運動が嫌いな方へのアプローチだとお聞きしました。逆に、読書が嫌いな方へのアプローチはありますか。

事業者： それは逆発想で、はっとしました。たくさん運動プログラムを用意するので、来た方が興味を持てる本が置いてあれば、また興味を持ってもらえるのではないかと思います。

委員： 健康カフェの自販機の設置内容ですが、甘い、糖分の高い飲料もあると思います。健康に関連させたアイデアはありますか。

事業者： 私たちの本社に設置されている自販機には、カロリーが全部明示されており、私たちでも気付かされるので、そんな工夫をしたいです。当社は健康食品、スポーツドリンクの開発もしているので、飲料メーカーとコラボして、自販機で出品できればと思います。お子さんの大好きなガチャに入れてサプリメントを設置する、ということもやっておりますので、そんなことを自販機、健康カフェでやっていければと思います。

委員： 研究機関、病院等と連携できるイベントはどんなものがありますか。

事業者： 私たちがコミュニケーションのルートを確保しないと難しいですが、先生方の趣味から生じた健康に関する講話をリレー形式でできるようにお願いしたいです。もう一つ考えているのは、ダイエットの失敗エッセイを募集し、健康管理の専門の先生に、何がいけなかったのか、どうすれば成功に結び付くのかを全体としてアドバイスしていただくことを考えています。

委員： 固有名詞が記載されているのでお聞きしたいのですが、協力会社とは具体的にはどんな連携をしようと考えているのでしょうか。

事業者： 協力会社は各種講演会等を専門的にプロデュースされている会社なので、健都の催し物をダイナミックに、一緒にやっていきたいと考えております。もう一つ、協力会社は小規模のセミナーを自主事業として開催されているので、ぜひお願いしてやっていただきたいです。

委員： やっていただけるんですね。

事業者： お話をしています。

委員： 各種プログラムが多様性を持っていることが魅力なのですが、健常者の視点なの
ですよね。健常者以外のプログラムを何か御提案いただきたいのですが、どのよう
にお考えでしょうか。

事業者： 障がい者のスポーツにも力を入れており、特にボッチャを健常者、障がい者が一
緒に取り組むことができると推進しております。図書館の会議室でできます
し、許可をいただけるのであればサウンドテーブルテニスなども、スペース的に可
能ではと考えております。障がい者のためにというよりも、一緒にやるってどれだ
け難しいことなのかを健常者に知っていただくのが大事かと考えております。

健都パークライフ創造パートナーズ

(プレゼンテーション)

【質疑応答】

委員： 管理している近隣施設と連携して、ライブラリーオープン前に 100 回以上イベン
トを行うと書いてありますが、距離はどの程度離れているのでしょうか。また 100
回という回数は、それなりに多いと思います。具体的に教えてください。

事業者： プログラムを積み上げた結果、100 回を超えた感じです。指定管理をしている 2
つの施設が近く、5分から8分程度の距離にあります。そこで開業準備をしながら、
先ほど申し上げた総括責任者と健康づくり事業リーダーの2人が現地に来て、公園
を使ったウォーキングやノルディックウォーキングを行います。種目によりますが、
月に数回ですので、我々としては無理はないと考えています。

屋外の運動プログラムですので、現地に人が来て行うという提案にしております。
私たちが現在、指定管理をしている場所に来てもらうのではなく、あくまでオー
プン前の公園を使い、私たちのスタッフがそこに出向いて行う形で考えています。

委員： 総括責任者等は、既存施設の指定管理とは全く関係のない人でしょうか。

事業者： そうです。ただ、近くにいる方がすぐに対応できますので、スケールメリットを
生かして、その場所にできるだけ早く配置させたいと考えています。

委員： 図書館ができれば人が集まると思いますが、オープン前なので周知が難しいと思
います。それは体育館で宣伝するなど考えているのでしょうか。

事業者： ホームページに掲載するのが第一です。屋外で天候の影響もありますので、現在考えているのは、事前に予約を取る方法です。ホームページを使ってなるべく早くスケジュールを配信し、準備して当日に備えます。もちろん連絡先等の個人情報をしっかり管理したうえで、天候が悪い等が予想されれば中止の連絡を行うなど、安全に配慮してやっていきたいと思っております。

10月27日に吹田市健都オープンイベントの実施を予定されていますが、そのプログラムの中で弊社がお手伝いする部分もあります。そういった中でできる限り、周知活動をしていきたいと思っております。

委員： 非常に充実した提案ですが、敢えて気になった点を言わせてもらいます。40から50ヘクタールの運動公園ではなく、2.5ヘクタールの近隣公園で、本当にこれだけ需要が見込めるのでしょうか。経験の中からこの場所を見て、どのような需要を見込んだのでしょうか。

事業者： 定員の数は、それほど多い人数ではありません。言われるように2.5ヘクタールの公園で、弊社の携わる他の公園には100、200ヘクタールなどの公園もあります。健康に関係する公園に向けて、私たちの持っているプログラムで、インドアで行っていたものをアウトドアでできるか、チャレンジをしていきたいと考えています。故に、私たちの開発しているデバイス系のIoT、ICTを使ったものも、どうすれば活用できるのか、そういうことをチャレンジしたいと考えています。

こういったことを実現できる場所として、研究機関Aなど健都を彩る人たちがいるなかで、連携を深めていく、そういったことに前向きな姿勢を、ここにも出させてもらっているという理解をしていただきたいと思います。

委員： 充実した健康遊具を使ったプログラムも含めて導入していただいて、健都レールサイド公園、健都ライブラリーのコンセプトに非常に合致したものだと思えます。一方で、指定管理料の中での取組ですので、敢えて本当にこの需要が達成できるのかとも思います。この需要を達成するために体育館、もう少し広範囲のスポーツ、運動施設での発信が必要かもしれません。その辺りのリスクについて、改めて考えていただく必要があるかもしれません。

事業者： 提案書にも書いてありますが、弊社の研究開発として実行しているもの、研究開発費用として実行しているものをここで投入している部分があります。通常の指定管理運営事業の収支だけでは非常に厳しい部分があることは考えております。私たちのマーケティングを実行できる場所として、僻地や遠い場所ではできないということがあります。この公園の周辺には、弊社が現在関わっている指定管理施設があること、直営の施設もあること。こういったことがあるなかで、経費、人件費コス

トを抑えることができることもあり、今回の提案をしています。

委員： プログラムの多様性など、とても魅力あるものだと思います。100 回以上の無料プログラム、生涯学習プログラム 140 回以上、加えて健康講座を実施するのは、負担ではないのでしょうか。

事業者： 負担ではないと言われると厳しいものもあるかもしれませんが、現実に他の自治体で、文化系プログラムだけでも 800 講座程度行っているものもあります。運動系でも 200 講座程度行っているものがあります。これも回数に数えているのかというものも含め、回数は大目に書いているものもありますが、回数としては達成できると考えています。

委員： プログラム実施に当たり、有料無料のものを提案されていると思いますが、プログラムを行っている組織や団体への仲介という形で取り組みたいという理解でよいのでしょうか。

事業者： 文化系プログラムに関しては、そういった部分がたくさんあります。スポーツ系や健康系のプログラムに関しては、弊社の人員がそれができるスキルを持っていますので、自分たちで行うと考えています。

委員： 健都ライブラリーとして、文化的な側面のプログラムを重視したいと思ったときに、連携を依頼してだめだったという可能性はあるのでしょうか。例えば「すいた歴史講座」、「ロボットプログラミング体験教室」等が書いてありますが、確実に実施できるものか確証をいただきたいのですが、いかがでしょうか。

事業者： ロボットプログラミング体験教室は、既に弊社でいくつかの図書館で実施をしているものです。非常に関心も高く、参加人数的には多くの定員は設けていないのですが、小学生対象で少人数とし、マンツーマンで行っています。いずれの図書館でも、早々に定員いっぱいになったと聞いています。こちらの場所でも実施可能なら、間違いなく実施できます。

委員： 例としてロボットプログラミング体験教室をとりあげましたが、一事が万事ではありません。140 を超えるプログラムを用意するという一方で、図書館からも生涯学習の視点からも魅力のあるものですが、確実な実施という面で心配になりました。

事業者： 健都という新しい場所ではありますが、岸部地区は歴史ある土地柄でもあります。歴史講座を提案していますが、市民の郷土への関心も強いと思います。他市からの

転入者も多い土地柄ですので、生涯学習プログラムの一つとして、吹田の歴史を知ってもらいきっかけになればと思っています。実施に当たっては、様々な年代の方の関心を集められるようなものを実施したいと考えています。すでに実績のある生涯学習プログラムが多数ありますので、自信を持っております。

委員： プログラムの企画そのものは、御社が担当するのでしょうか。

事業者： 得意不得意はございますので、文化系及びそれ以外のものは、御相談しながら行っていきたいと思っています。

委員： 例えば、障がい者対応のプログラムを依頼したいときに、企画を含めてやっていただけるという理解でいいのでしょうか。

事業者： 内容を見せてもらい、逆にそういったプログラムを考えていくチャンスとして捉えていきたいと思いますので、積極的に前向きに企画を考えたいと思います。

ただ、プログラムはこれだけ準備していますが、逆に利用者がそこまで望んでいないという場面も考えられます。そのような場合は、このプログラムでなくてこちらのほうがよいなど、吹田市と相談しながらやっていきたいと思います。時間とともに需要も変わってくるので、相談しながらやらせていただきたいと考えています。

委員： 例えば今回、健都ライブラリーは医療系、健康系に力を入れる図書館ですが、がん対策講座のようなものの提案はないように思います。依頼したいということであれば、対応してもらえるのでしょうか。

事業者： すでに病院とも、協力の話ができております。我々は専門職ではありませんので、専門職のサポートを受けながら、市民の要望の強いものに関しては、新たな企画としてできるだけ実現していきたいと思っています。専門以外のものは、やはり専門家の御助言、御指導をいただきながら、よりよいものを作っていければと考えております。

委員： 現行の提案プログラムに関しては、実現できるのであればほぼ完璧だと思います。特に健都レールサイド公園を使った健康遊具の使い方の提案は、健都のやっていきたいことと合致していてよかったと思います。とてもイベントが多く、それについて言うことはありませんが、ただ0系新幹線とカフェスペースの活用については、インスタントコーヒーとパンの自動販売機だけなど、少し寂しい気がします。それに関してはいかがでしょうか。

事業者： 0系新幹線については、吹田は元々鉄道の町で、市民の関心も高いのではと思っています。先ほどのイベントの話にも通じますが、私たち自らが企画するものも多数ありますが、市民がボランティアやNPOなどで企画をお持ちの方、こういうことをやってみたいということも出てくるのではと思っています。絵画写真の展示や、鉄道に関わる仕事を長くしていた方も多いため、市民を講師役として鉄道に関わる講演会をしてもらう。また、お持ちの写真資料や、貴重な資料の展示なども御用意されていると聞いています。そういった展示も実施すれば多くの方の関心を集めるのではないかと思います。カフェについても、カフェという皆さんが集いやすい場所、図書館の中でも飲み物を通してくつろげる場所で、吹田の図書館では初めて認知症カフェを実施したいと思っています。これについても我々は専門職ではないので、大学Aの先生からサポートを受けて、カフェの立ち上げや運営を行っていきたく考えています。

委員： ワイヤレス脈拍計を着けていますが、どこかとコラボして企画されているのでしょうか。

事業者： これも弊社独自開発商品になります。自前のプログラムを行うとき、高齢者の健康管理では、通常時の脈拍から異常な数値が出たときには赤いシグナルが出るなど、まだまだ多人数で行うまでの技術は難しいのですが、実行しながら進めていっているところです。

委員： どこかの大学と連携しているのでしょうか。

事業者： 大学とは連携できていません。

委員： 実際に健都レールサイド公園に近いところで、ワイヤレス脈拍計を着けてイベント等行うのでしょうか。

事業者： 利用者に着けてもらいウォーキングを行う、貸出をして啓発していくなどを考えています。

委員： イベントの内容について質問です。「夜の図書館探検」がとてもおもしろそうで私も参加したいと思うくらいですが、対象が子供となっているので残念です。この「夜の図書館探検」について、具体的に内容を説明してもらえますか。子供なので、何時までなのか、その間、保護者はどうするのか、図書館を管理するスタッフについてなど、具体的な説明をお願いします。

事業者： 「夜の図書館探検」については、既に実施している図書館もあり、非常に人気があります。子供対象の場合は、夏休みに行っている図書館が多いです。健都ライブラリーについては、図書館の開館時間が夕方6時まで、木金曜は8時までですが、施設全体としては9時までの開館となっています。その時間差を利用して、例えば図書館は6時で一旦閉館し、その後図書館探検を始めるという形で招集をして、子供を何グループかに分け、図書館スタッフが引率して、夜の誰もいない図書館を探検する。要所、要所にスランプラリーのようなものを用意する、怖いお話会と一緒にするなどもあります。御提案いただいたように、大人も関心があるというのは斬新な御意見でした。そのようなニーズがあるなら、ぜひ実施したいと思います。

委員： その際、図書館スタッフは何人くらいで対応するのでしょうか。

事業者： 今回の健都ライブラリーでの実施については、まだ具体的な企画書は作成していません。他の図書館の例では、お話会担当者、子供対応の担当者で、概ね3人から4人の配置だったと聞いています。保護者には9時まで開いているカフェでお待ちいただくなど、イベントが終わったら子供さんを連れて、御一緒に帰っていただくというイメージで考えています。

委員： フォトロゲイニングイベントで順位を競うとありますが、順位の高い人には新幹線内スペースで展示するなど、何か優遇措置のようなものは考えているのでしょうか。

事業者： イベントに参加してもらうモチベーションの一つとして、弊社の商品などを御提供することも考えられると思います。提案書の写真で、公園の遊具の上に人が乗っているのが見えると思います。公園建設中に公園に行くと、0系新幹線の写真を撮っている人がこの遊具上にいました。新幹線の「撮り鉄」と呼ばれるような方たちの興味が、とても向いているのだと思います。新幹線を使った写真展、若しくは新幹線の中から季節によって見えている、例えば富士山の写真などを展示する企画をすれば、この方たちが非常に反応するのではないかと思いました。新幹線がここにあるということで、新たな試みができるのではと感じました。

委員： 窓口の運営に携わる方々のユニフォームですが、これは図書館業務の方と健康増進事業の方とで違うユニフォームのほうが、効率的で、利用者にとってサービス向上につながると考えているのでしょうか。

事業者： 現状はそう考えています。同じフロアのサービスカウンターで同居しているので、ぱっと見て役割が分かるようにはしておきたいと考えています。

委員： 役割が違うのは分かりますが、団体が一体としてやっている、またライブラリーと公園が一体なのだということで、統一のユニフォームということも考えられると思います。少しマークや印が違うということも考えられるのではないのでしょうか。雰囲気作りとしてどうでしょうか。

事業者： 今はその逆で、ロゴマークを統一し、図書館スタッフ、健康づくりスタッフとも、同じロゴマークと名称のついたウェアやスタッフ章で、統一感を図ろうと考えています。

委員： 雰囲気作りとして、会社ごとに分担しているのではなく、来館者が全体を一定視線で見られるような雰囲気づくりは必要かと思います。またもう一つ、健康カフェの自動販売機はどこでも見られるレギュラーコーヒーなどに見えますが、何か健康と絡めてアイデアはありませんか。

事業者： 常設の自動販売機に関しては、あまり考えていません。イベントとしては、厨房があるので、食に関するイベントを行い、地元のコーヒーショップに来てもらう等考えています。あとは常に隣に書籍コーナーがありますので、そこに食や健康に関する掲示坂を置き、興味を持ってもらうなど発信していきたいと思っています。

委員： これはお願いなのですが、この自動販売機はどこにでもある自動販売機ですよ。機能はよいのですが、雰囲気づくりで考えると、せっかくの健都の上品なイメージが壊れる気がします。先ほどのユニフォームも自動販売機も、場の雰囲気づくりとしてその場に合うものの工夫提案があるとよいと思いますが、どうでしょうか。

事業者： 今後対応できる部分だと思いますので、ラッピングやカラーリングなど柔軟に対応できると考えます。

委員： 認知症カフェでは大学Aとの連携という話がありましたが、具体的なプログラムは誰が行うのでしょうか。

事業者： 大学 A の、認知症カフェに関係する先生です。実は私も個人的にボランティアで、認知症カフェの運営委員をしていますので、ノウハウは持っています。最初はこちらのスタッフで。行く行くは、こちらが計画したプログラムに沿って、一緒にやりたいというボランティアが絶対に出てこれると信じています。吹田の市民は、自分たちの住むところは自分たちでよくしたいという意識の方が非常に多いと感じています。多くの市民に関わってもらうことで、本来の認知症カフェとしての意味合い

が広がるような運営をしていきたいと考えています。

委員： そこまでは責任を持ってやってもらえるのでしょうか。

事業者： はい。

委員： 三者合同のチームで管理運営するとのことですが、現場で働くスタッフや管理職の方々も、違う会社の方々がおられることになると思われます。その交流や連携をスムーズにしてほしいと思っています。自分の管理外だとか、業務外のことを勝手にできないなどの制約があると、利用者もその場で働く人も嫌な思いをすることになると思います。三者合同の現場でスムーズに連携が取れるような、意見が通るような運営をしてほしいと思います。

事業者D

(プレゼンテーション)

【質疑応答】

委員： 細かいところですが、指定管理業務の収支計画で、職員の給与や収支計画書の推定根拠資料が提出されていて、職員給与が具体的に載っています。総括責任者と副総括責任者で給与が違います。仕事の内容が全然違うということですが、仕事の違いは何があるのでしょうか。

事業者： 総括責任者、副総括責任者の違いは、各社それぞれ企業体で構成されており、それぞれの会社の基準で算出している費用になりますので、若干考え方が違う部分があります。また総括責任者に関しては最も責任があり、それなりのクラスの人間を配置している状況があります。

委員： 特に総括責任者だから何か資格を持っているなどはあるのでしょうか。

事業者： 防火管理責任者などの必要な資格は備えたうえで、全体を総括する責務の重さということで、こう設定しています。

委員： 我々が言う必要はありませんが、何となく給料に開きがあるような気がしましたので、質問させていただきました。

委員：今回、提案書について訂正の説明がありましたが、副総括責任者は追加になったのでしょうか。どうなったのか、改めて聞かせてください。

事業者：当初提出したものでは、健康づくり事業リーダーが副総括責任者を兼任するという形でした。実際には、独立した形で副総括責任者1名を配置しています。

委員：全体で言うと、総括責任者が1人、健康づくり事業リーダーは副総括責任者を兼任はしていないということによいでしょうか。

事業者：兼任ではありません。独立した形で副総括責任者を置き、別に健康づくり事業リーダーを専任で1名配置しています。まとめると、総括責任者1名、副総括責任者2名です。費用はすべて、総括責任者1名、副総括責任者2名で計算しております。表のみ間違っていましたので、訂正します。

委員：提案内容について教えていただきたいのですが、プレゼンテーションではありませんでしたが、公園維持管理業務の、公園の管理に関する考え方で、「安全な管理を実現するためのPDCAサイクル」というものが書いてあります。この中で、ストックマネジメント計画、セルフモニタリングという独自の工夫のようなことが書かれていますが、具体的にはどのようなことをするのでしょうか。

事業者：ストックマネジメント計画とは、公園管理のなかで起こる事象をストックして、それをどのように改善するかというものです。そうすることで予測が立つようになり、どういうところに特徴を持って事前に対策を取ればよいかを考えます。補修や改善をした後に、セルフモニタリングを行います。我々自身で内容確認を行い、情報共有し、日常点検など様々な管理につなげていきます。

委員：今までの公園管理、植栽管理の経験でされていることなのでしょうか。

事業者：はい。

委員：ルールサイド公園の樹木の現在の状態、家屋の状態を気をつけておくべきことは、具体的にどのように認識されていますか。

事業者：現状は、植栽も高木も育っているところです。根の張り方や、木自体の剪定等についてはもう少し育つということ、弱ってこないかということに目を配り、しっかり管理していきたいと思っています。あとは強風で倒れそうだとか、支えをしているところ、自立を十分にできるかということがあります。倒木の危険があるかなど

を事前に見て、人が近づかないような立ち入り禁止エリアを作って戻していくなどします。高木で太い幹ではないので、枝が折れて落ちるなどの心配はさほどないと思いますが、風で倒れる、徐々に傾くなどすることがあれば、対策をしてどのように直していくか検討する等の管理をしていくと考えています。

委員： 現在の健都レールサイド公園や、公園や植栽の初期段階を見ているか心配でした。それでいくと、プログラムで樹木医に来てもらい植物観察というものがありました。指定管理期間は5年間ありますが、まだなかなか難しいのではと思います。その辺りのタイミングはどう思っていますか。

事業者： どのタイミングが皆様に喜んでもらえるのかと思いますが、やはりこの木は何の木だなど、樹木医が話をし、この木はこういう特徴がある、この木は育つとこんなことになるなどの話ができるかと思っています。子供たちにも変化を楽しんでもらえるだろうし、図書館には関連の本があるということなので、本を借りてもらいます。様々な種類の木があるので、今のタイミングでも説明をして、大きくなるとどうなるかなどの話をできれば、興味を持ってもらえるのではないかと思います。公園に来て、歩き、「危ないよ」など、子供が私たちに言いに来てくれることもあるかもしれません。そういうふうに、木を見るきっかけになればと思いますので、実際には始まった段階からやりたいと思います。

委員： 提案書等を見て、行事等を見ると年間多様なプログラムを用意されています。具体的な内容については、多様なプログラムを運営するに当たって、色々な会社と連携されているのでしょうか。

事業者： 連携もしたいと基本的には思っていますが、我々の構成のなかでは、商業施設で日常的にイベントをしている会社、指定管理で運動プログラムをしている会社、食の事業部を持ち食に関するイベントをしている会社があり、我々だけでも回数は十分できるとは考えています。そういったところで実際に行っているなかでの表ですが、吹田市でやるからには、我々だけではなく色々な人にも入ってもらいたいという思いはありますので、決まったらそういった話もさせてもらいたいと考えます。まずは我々でできるかと思っています。

提出している行事は、我々チームで運営をさせていただくプログラムで組んでいます。このプログラムを外注するのではなく、実際に在籍するメンバーで打合せをしています。例えば構成企業に栄養士が既に在籍しており、構成企業で食に関するイベントを行っている者がまた連携して行っています。このメンバーの企業で、プログラムは組んでいます。

委員： プログラムのカレンダーを見ましたが、休みや週末にプログラムが集中しています。平日にはあまり企画はされないという理解でよいでしょうか。

事業者： いいえ。240回というラインがあったので、まずはそこに落とし込んでみました。土日がよいかと思い、カレンダーでは土日になっていますが、様々な人が来られる機会ということで、スタートさせる前の段階で、この時間帯のほうが集まる、この曜日のほうが集まるなどの話は出てくると思います。日程は固めたものではありませんので、臨機応変に対応したいと考えています。

委員： 都市型マルシェの話がされていました。健康カフェとの一体事業かもしれませんが、マルシェ事業は年何回程度行いたいと思っているのでしょうか。

事業者： 基本的に、毎月実施でよいと思っていて、大きなイベントのなかで中心的に展開していきたいと考えております。開催に当たっては当然、地元企業を中心に、特産物などを置かせていただく。大阪府が実施している「大阪産（おおさかもん）」を中心に集めていきたいと思っています。当グループは全国的にいろいろな施設を運営していますので、そこから食、健康に伴う、皆さんに認識していただけるようなものを、イベント的に展開していきたいと思っています。

委員： 確認です。毎月がベースですが、どちらかといえばイベントのときに集中してやりたいという考え方でしょうか。

事業者： はい。その時に規模を大きくして、色々な健康に伴うものをしっかりと集めてきたいと考えています。

委員： 分かりました。

委員： 健康増進で、歩行姿勢測定や姿勢・運動動作測定、足底圧測定など専門性が高い器具を扱っているようですが、御社でノウハウがあるのでしょうか。

事業者： 当社の他の施設や、クレイドル教室を実施し、利用者の要望や生徒の測定を行うなかで選定しています。写真を見てもらうだけだと複雑な感じになりますが、6メートル程度歩いて測定する、椅子から立ち上がった時の筋力測定などで、利用者に強い負担がかかるというものではありません。実際に使っているものを参考に選定しています。

委員： ライブラリースタッフの想定している資格が全く無しということですが、これは

「業務レベルの統一化」があるので、ライブラリースタッフには特に司書資格は不必要というお考えでしょうか。

事業者： いいえ。決して司書資格が要らないという考えではありません。今回記載した13名については、既にスタッフが確定しているので、記載させてもらいました。それ以外のスタッフについては、当然、経験者を優先しますので、私どもの別施設で勤務しているスタッフを配置する予定です。ただ、現時点で記載ができなかったのも、ブランクにしています。原則として本を扱うので司書資格優先、それ以外に今回についてはおもてなしの部分、接客ではないですが接客に近い部分を優先させていただきたいので、本にだけ精通しているのではなく、そういう部分にも対応できる者を配置させてほしいと考えています。

委員： プレゼンテーションにもありました、「本に興味を持ち、利用したくなるライブラリーをめざす」というコンセプトですが、事業計画書に「レイアウトの工夫や啓発活動による読書のきっかけづくり」で「親しみやすいライブラリーにするためには視覚的な配慮は欠かすことができません」とあります。この「本に興味を持ち、利用したくなるライブラリー」には、視覚的な配慮はあるのでしょうか。

事業者： ライブラリー内の構成については、吹田市と協議をしないといけないことなので、どういうサインを作るか、どういう動線を作っていくかは、スケジュールでもお話しした7月以降に配架計画を協議させてもらいます。その際には、どういうロケーションでどういうものを配置していくかを協議させていただきます。健康コーナーに5,000冊を予定されていますが、そこでどういうジャンルのものをどういうふうに扱っていくのかという見せ方や、当然、図書館機能を持っているので、健康の本だけではなく、子育てに関わるものや、一般書を扱うコーナーもありますので、サインを設置する際には、そういうことを分かりやすく、どなたが来てもここに行けばこういう本があるということを、初めて図書館に来た人でも分かるように、そういう意味で視覚に訴えるようなサインを作っていきたいと考えています。

委員： その際、視覚的な障がいを持った方への配慮は考えていますか。

事業者： 協議事項にはなりますが、設置する際の動線の部分、点字などで御案内できればと考えています。

委員： 「地域社会との共生と地域経済の活性化」とありますが、管理運営業務を通じて、どのような地域社会との共生をするのでしょうか。どのような状況を地域経済の活性化とし、どのように寄与すると考えているのでしょうか。

事業者： ライブラリーに限らず公共施設として、指定管理者だけが管理運営をするのではなく、地域の皆様と一緒に運営していくという姿勢を、私どもは持っています。ライブラリーであれば、ボランティア団体や企業に御協力いただいてコーナーを設置したりなどの機会を設けていきたいと考えています。その部分で、地域の共同や地域の活性化に生かしていきたいと認識しています。

委員： 共同で実施するということが地域社会と共生するというのは分かりますが、地域経済を活性化するというのはどのような状況をお考えなのか、お聞きしたいです。

事業者： 物販を行うわけではありませんので、例えば会議室を使って地元企業のアピールができるなどの機会を設けていきたいというところがあります。実際に費用的に、この施設を使ってカンパしてくださいというものではないので、ここをクローズアップされると辛いのですが、御参加いただくことによって地域の経済力は活性化していくのではないかと認識しています。

委員： これからの取組だと思いますが、おそらく地域への社会的責任を果たして地域社会に貢献していきますということでしょうか。

事業者： はい、そうです。

委員： 健康に気づき、楽しみ、学べるライブラリーというのが今回のコンセプトになっています。健康の重要性に気づいてもらえると、御提案のような取組にどんどん参加してもらえと思いますが、健康に気づくのは非常に難しいと思います。この始まり、きっかけについては、どのようにアピールしていこうと考えていますか。

事業者： 実際には我々から仕掛けていかないと、気づきはなかなかしていただけないと思います。イベントの中で、肌チェックコーナーがあります。これは企業向けに行っているものですが、肌年齢チェックを行うのは、男性のほうが実は多いのです。女性は化粧品の店などでチェックされていますが、男性はそういうことがないとなかなか意識を持ってくれません。ところが、イベントを行うことによって、男性が自分の肌年齢をチェックします。我々は食に関するイベントをさせてもらい、食べることでこういう体質改善ができますよというアドバイスをさせてもらいます。それは気づきの一つかと思います。また、先ほどの樹木医も、ライブラリーなのでイベントには必ず本につなげています。食に関しても料理教室をするわけではないので、健康に関わるものをアドバイス、アピールする際に、隣にそのコーナーの本を設置させてもらいます。こういう本を読めばこういうものが学んでいける、御自身で学んでいけるような環境を作っていきたいと考えています。

委員： 地域の共生、健康寿命の延伸等の理念でプログラムが作られると思います。先ほど肌の話もありましたが、健常者の視点のプログラムがとても多いと思います。例えば障がい者関連のプログラムをお願いしたいといったときに、御社が責任を持つてできる範囲では、どのような御提案がありますか。取り組み方、姿勢、考え方、もっと言えば具体的にどういったことにつなげるかを教えてもらえるとイメージしやすいです。健常者以外に対してのサポートや支援をどのようにお考えですか。

事業者： 我々が現在取り組んでいることとしては、植栽の下草管理をやってもらっています。雇用まではいきませんが、就労として公園の中で、非常に丁寧にやってもらっています。私の思いとしては、公園でそういう作業を日常に行うことで、そこに来る近隣の人たちと顔を合わせ、顔なじみになります。なかなか接する機会もなかったものが、公園で何か一緒にやるからこそ、災害など何かあったときに、障がい者の方も一緒にこの場所に避難して来られる。やってもらえることを我々も見つけ、御提案しながら、プログラムになるかは分かりませんが、何時間か働いて基礎を身に付けていただく。これからスタートですし、何ができるか分かりませんが、取り組んでいる事例として、我々の考え方として紹介させていただきました。

また、事業計画書に「公の施設としての公平なサービス提供のための取組み」、「共用品・共用サービスの採用推進」と書かせてもらっています。障がいを持つ人とそれ以外の方が共通で使ってもらって何の支障もないようなものを、共用するという考えです。身近ではシャンプーのポンプに触れて分かる印が付いているようなものです。日本では一番古くはテレフォンカードの時代からです。表裏と前後、それを分かるように右側にへこみがありましたので、弱視の方でも分かりました。そういった共用品、共用サービスや考え方を推進している公益財団法人があり、そこに代表企業がつい最近加盟したところです。ちょっとした工夫で皆さんが使いやすくなるという取組については、ライブラリーや公園でも積極的にやっていければと思っています。そうすることで、障がいを持った方にも来やすいような形、公の施設として公平なサービスを受けていただける取組は頑張っていきたいと思っています。

【最終採点・採点結果の集計】

ウ 採点結果報告、講評、答申

委員長： 事務局から採点結果の報告をお願いします。

事務局： （委員別の採点集計表（総括表、提案団体別）を配付）

合計点数が最も高い応募者は、提案団体Cで 433 点です。また、2 番目に高い点数を獲得いたしましたのは、提案団体Aで、380 点の評価です。いずれの提案団体に

おきまして平均点数は60点に達しておりました。

なお、吹田市ホームページで公表する際には、各委員のお名前は非公開とさせていただきます。

委員長： 最高得点を獲得したのは健都パークライフ創造パートナーズ、次いで高い得点を獲得したのは健都パーク&ライブラリーとなりました。

この採点結果について、何か御意見・御質問等がございますでしょうか。

(意見、質問なし)

委員長： 特段無ければ、採点結果に基づきまして、健都パークライフ創造パートナーズを健都レールサイド公園及び吹田市立健都ライブラリーの指定管理者候補者に、健都パーク&ライブラリーを次点者に、それぞれ選定することを、当選定委員会として決定することにつきまして、御異議等ございませんでしょうか。

(異議なし)

委員長： それでは、このように決定させていただきます。

結果につきまして、各委員から講評をいただきます。選定を通じての感想や、指定管理者候補者に対して今後期待することなど、一言ずつ述べていただければと存じます。

【講評】

委員： 図書館については提案がないところもあったように思います。公園については、皆様色々工夫されて、それぞれが色々な提案をしていただきました。今回は、公園、図書館がメインだったので、健都パークライフ創造パートナーズが選ばれる結果になったのではと思います。

吹田市と連携して、健都レールサイド公園とライブラリーがうまくいくように管理していただきたいと思います。

委員： 公園の維持管理等に関する業務について見たところ、非常にレベルの高い、きめ細かい提案をされたと思います。健康をテーマとしたプログラム、更にライブラリーでの文化・芸術を含めたプログラムも充実しているかと思います。ライブラリーの管理、窓口業務の人員配置の面でも、他の団体と比較して非常に充実しているかと思います。

一点、プレゼンテーション審査時に質問もしましたが、健康カフェの設えや管理に携わる方々のユニフォーム、自動販売機設置など、管理を始めてから設置する設

備や装置、物品については、全体の公園イメージやライブラリーの雰囲気を壊さないように整備していただければと、選定された団体にはお伝えいただきたいと思えます。

委員： 評価のポイントは、純粋に多様なプログラムの魅力に尽きていると思えます。また、プレゼンテーションの内容に関して、委員の各種質疑に対しても明確に答えられていたという印象も持ちました。行政側の要望が今後出たとしても、柔軟に対応していただけるという態度が見られたと感じましたので、今回の内容につきましては適当であると考えております。

委員： 健都レールサイド公園及び健都ライブラリーの方向性に、一番合致したイベント等を企画されたのが健都パークライフ創造パートナーズであると思えます。
健康増進広場の健康遊具を使った取組等もしっかり理解したうえで、それに基づいて遊具の説明等もしてもらえるということで、非常に安心して任せられると感じました。これを機に、健都レールサイド公園がもっと市民の皆さんに活用していただけるように、うまく発信していただきたいと思えます。

委員： プレゼンテーションや資料、どちらに関しても、健都パークライフ創造パートナーズが他の3団体よりもどうしてもよく見えてしまうというのがありました。プレゼンテーションを聞いても、完璧という印象を持ちましたので、健都パークライフ創造パートナーズに高得点をつけさせてもらいました。
この資料どおり、計画どおりに運営できるとは限りませんし、黒字や赤字などで今後どうなるか分からないと思えますが、説明を聞く限りは希望が持てるのではと感じました。

【答申】

委員長： 本委員会より吹田市長及び吹田市教育委員会に対し、健都レールサイド公園及び吹田市立健都ライブラリー指定管理者の候補者及び次点者について、答申を行うことといたします。

講評いただいた事項が、指定管理開始後に順守されるよう、講評の取扱いについては答申書の別紙として位置付けますが、別紙の内容につきましては、各委員にも確認をさせていただきますが、最後は委員長一任とさせていただきます。

(答申書を委員長から健康医療審議監に手渡し)

(2) その他

委員長： 次に、次第「案件2 その他」について事務局から報告してください。

事務局： 本日まで3回の選定委員会に御協力を賜り、誠にありがとうございました。

今後の予定ですが、9月中下旬までに応募者に対しまして、選定結果の通知を行います。その後、仮協定の締結、12月下旬に市議会の議決を得て本協定となり、令和2年4月から5年間、健都レールサイド公園及び吹田市立健都ライブラリーの管理運営をお願いすることとなっております。

また指定管理期間の2年目である令和3年度、及び4年目である令和5年度には、本選定委員会の委員の皆様にはモニタリングをお願いする予定です。その際には改めて御連絡させていただきますので、御協力よろしくお願いいたします。

委員長： 本日の選定結果をもとに、必要な手続きを進めていただくようお願いします。

事務局： 最後に、事務局を代表しまして健康医療審議監より御挨拶を申し上げます。

健康医療審議監： (御挨拶)

委員長： これをもちまして、本日の選定委員会を終了します。

委員の皆様のお協力をいただきまして、無事に選定できたと思っております。改めて御礼申し上げます。本日はありがとうございました。

事務局： ありがとうございました。

(閉会)